



発行：柏市富里地域ふるさと協議会・富里地区社協部会
<http://www.fk-tomisato.net/>

編集・制作：広報部 koho@fk-tomisato.net
 お問い合わせ：TEL 04-7173-9531（富里近隣センター）

東日本大震災から10年 ～ 地震に備えて ～

10年前の2011年3月11日、14時46分18.1秒、宮城県牡鹿半島の東南東沖130km(北緯38度06.2分、東経142度51.6分、深さ24km)を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生しました。発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震でした。最大震度は宮城県栗原市で観測された震度7で、宮城・福島・茨城・栃木の4県36市町村と仙台市内の1区で震度6強を観測しました。当地震によってもたらされた災害(震災)が「東日本大震災」です。2016年4月14日には、熊本県と大分県で相次いで発生した熊本地震、先日の2021年2月13日、23時8分ころ福島県沖を震源とする地震(東北地方太平洋沖地震の余震)も発生。今後30年以内に「首都圏直下地震」も高い確率で発生するといわれています。

東日本大震災から10年の節目を機会に防犯防災部、地域「情報防災」プロジェクトと共同し、富里地域オリジナルの防災知識集、地震防災編<第1弾>を発刊しました。今後もテーマ

別に防災知識集を発刊していく予定です。防災知識集と同時に配布しますクリアファイルに保管し防災に役立てて頂ければ幸いです。

コロナ禍で在宅している時間もあるかと思えます。これを機に、

- ・避難場所
- ・避難方法
- ・連絡方法
- ・災害への備え

などについて、ご家族で、話し合っはてはいかがでしょうか。



● 「防災知識集」発行によせて ●

発災当時の2011年は、柏市でも災害時における要援護者策として「K-Net」が動き始めた直後でした。いきなり本番に直面し、安否確認に各町会長も右往左往したものでした。あれから私たちはどのような対策をしてきたのでしょうか？

この度3.11を振り返るにあたり、「防災知識集」を発行する運びとなりました。なかでも地域でボランティアとして災害対策活動をされている荒谷 博氏に全体の監修をお願いしました。同氏は気象庁で災害対策に取り組まれ、各地の被災状況をつぶさに見てこられたエキスパートです。しかも富里地域内にお住まいということで、今後も地域でご指導をお願いしていきます。

富里地域ふるさと協議会
 会長 水谷 修國

● 天災は忘れた頃にやってくる ●

今年の3月11日で東日本大震災から折しも10年になります。これを契機に、月日の経過とともに薄れつつある災害に対する危機意識や正しい備えの知識を地域に向けて普及啓発すべく、ふるさと協議会が当地域在住の防災専門家にご協力をいただいて、富里地域オリジナルの防災知識集を発刊されますことは、非常に意義深いことであり、とても誇らしく思います。

今号を皮切りに、地震、風水害、コロナ感染などの地域住民を取り巻く危機事案を、テーマごとにシリーズ化していく予定とお聞きしています。「天災は忘れた頃にやってくる」と申します。平素から正しい知識を身に付け、できる限りの備えに努めましょう。

富里地区災害対策本部長
 (富里近隣センター所長)
 平島 雅治

= 東日本大震災から10年に想う =

2011年3月11日14時46分。緊急地震速報のけたたましい音が鳴動し、東京・大手町の気象庁を激しい揺れが襲った。揺れが収まり緊急作業を行う地震現業室に駆け下りると、岩手県、宮城県、福島県沿岸に津波警報、北海道から九州にかけての太平洋沿岸に津波警報・注意報が発表されており思わず目を疑った。緊急記者会見の時間が迫る中、報道発表資料を作成する横のモニターからは各地の津波の映像が映し出されていた。宮城県名取川に津波が遡上する画面に切り替えられた途端、名取市閑上地区に津波が越水し真っ黒な濁流が田や畑、道路に流れ込み家屋や車を襲う映像が流れた。アナウンサーが必死に状況を伝える声が相まって身体が震えたのを今でも覚えている。地震名称は「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」。災害名称は「東日本大震災」。死者・行方不明者は18,426人(2020年12月10日現在)、震災関連死3,767人(2020年9月30日現在)という戦後最悪の自然災害となった。今もなお、約42,000人(2021年1月13日現在)が全国で避難生活を余儀なくされている。

この原稿を書き始めた2月13日23時08分。福島県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生した。最大震度は6強。柏市は震度4。久しぶりの強い揺れに驚いた。この地震は東北地方太平洋沖地震の余震。10年経った今も東日本大震災は終わっていない。



《南三陸町防災庁舎》

首都圏では今後30年以内に70%という高い確率で、甚大な被害がでる恐れがあるマグニチュード7クラスの発生が想定されている。「首都直下地震」である。この地震が発生すると、最悪のシナリオでは23,000人が強い揺れや火災等により犠牲になるとされている。

首都圏では今後30年以内に70%という高い確率で、甚大な被害がでる恐れがあるマグニチュード7クラスの発生が想定されている。「首都直下地震」である。この地震が発生すると、最悪のシナリオでは23,000人が強い揺れや火災等により犠牲になるとされている。

《編集後記》

2020年度は新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により、2回にわたり緊急事態宣言が発出されました(2020年4月7日、2021年1月8日)。その影響で、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催は1年延期、ふるさと協議会主催の各イベントも中止・縮小しての開催、各町会の夏祭りをはじめとするイベントも中止となりました。また、感染拡大防止のため、3密(密閉、密集、密接)を避ける、不要不急の外出自粛等々、生活も一変する波乱の年でした。

地震は予知することはできない。時と場所を選ばず突然襲ってくる。災害時において最も重要なことは「災害から命を守ること」である。地震から自分や家族の命を守るためには、住んでいる地域を知ること、自分だけではなく高齢者、障害者、子育て世代等、家族が必要とする事前の備えをしておくこと、また、家族と災害時の行動をイメージしておくことが重要だ。また、気象庁が発表する緊急地震速報や地震情報、柏市等が発表する情報を入手し適切に行動することも大切だ。

忘れてならないことは、甚大な被害となれば



《震災から一年後の南三陸下道荘から見た朝の風景》

なるほど警察や消防等が助けに来てくれることは極めて困難だということだ。地域の人々も被災者となり助けたい気持ちはあっても直ぐ

に周りの人を助けることは難しい。昔と違い地域との繋がりが薄くなっていることも互いに助け合うことを難しくしている。

東日本大震災から10年。自分や家族の命を守るためには、何よりも「自らが災害に備えておくこと」が最も重要であることを認識し、生活の中に少しだけ防災について考えるきっかけにしたいものである。

地域「情報防災」プロジェクト
富里地域ふるさと協議会防災アドバイザー
荒谷 博



ふるさと通信「どんぐり」もイベントの中止、仕分け作業で密となることや各戸への配布による人との接触などを考慮し発刊を控えていました。新型コロナウイルスの感染拡大によりSNSの利用も一般化しつつあり、来年度はSNSを活用しての情報発信も視野に入れて検討していきます。

ふるさと協議会のホームページもご覧ください。

(広報部部长 川田 芳史)

